

めぐみイエス・キリスト教会

2021年11月7日(日)第一主日礼拝
週報「通算第582号」



2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌203「ああイエス君」 p. 304

【交読文】 No.13詩篇第34篇 p. 888

【賛美Ⅱ】 新聖歌426「世には良き友も」 p. 686

【使徒信条】 【主の祈り】 【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.18「聖なる方」

【聖書朗読】 使徒の働き13章13節～14節(新約p. 260上段)

【礼拝説教】 《帰ってしまったヨハネ・マルコ》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

◎本日の聖書朗読(使徒の働き13章13節～14節)

13:13 パウロの一行は、パポスから船出してパンフィリアのペルゲに渡ったが、ヨハネは一行から離れて、エルサレムに帰ってしまった。

13:14 二人はペルゲから進んで、ピシディアのアンティオキアにやって来た。そして、安息日に会堂に入って席に着いた。

●ポイント1. 「ヨハネ・マルコ」とは？

■マルコ ヘブル名はヨハネで、「主は恵み深い」という意味である。マルコはギリシヤ名である。マルコの家はエルサレム市内にあり、大勢の人々が集まるのに十分な広さを持っていたので、教会の集会にはよく用いられた。伝承によれば、この家はイエスが弟子たちと最後の晩餐を共にされた二階大広間のある家であり、またペンテコステ以前、そしておそらく聖霊降臨日当日も弟子たちが集まっていた場所であったと思われる。家が広く、女中がいたり門があったことなどから、マルコの家はかなり裕福

であった。自分の家でイエスと弟子たちの集りがなされていたことから、マルコは彼らをよく知っていた。マルコを信仰に導いたのは、マルコを「私の子」と呼んでいる使徒ペテロであったと考えられている。

※マルコの福音書14章51節～52節「ある青年」 (新約p.100下段)

14:51 ある青年が、からだに亜麻布を一枚まとっただけでイエスについて行ったところ、人々が彼を捕らえようとした。

14:52 すると、彼は亜麻布を脱ぎ捨てて、裸で逃げた。

※ペテロの手紙第I 5章13節「ペテロのあいさつから」 (新約p.472上段)

5:13 あなたがたと共に選ばれたバビロンの教会と、私の子マルコが、あなたがたによろしくと言っています。

●ポイント2.「マルコが帰ってしまった理由」とは？

バルナバとサウロは救援物資をエルサレムに届けた際、マルコを連れてアンティオキアに戻ってきた。その後マルコは、第1回伝道旅行に同行する。マルコがバルナバのいとこであったからだけではなく、マルコが主イエスについて実際に見聞きしたことを伝えることができたからである。

しかしペルガに渡った時、一行から離れてエルサレムへ帰ってしまった。その理由としては、サウロが一行のリーダーとなり、バルナバが軽んじられているように見え、それに憤慨した為であるとか、キプロスで宣教活動の困難を経験し、次の目的地がさらなる奥地で異邦人も多い地方であったゆえ、それまで以上の困難さを予想し、臆病になった為であると考えられている。その後、第一回教会会議の際にエルサレムへ上ったバルナバが、マルコを再びアンティオキア教会へ連れ帰ったと考えられる。

●ポイント3.「その後のマルコ」は？

※ピレモンの手紙24節「ローマ獄中において」 (新約p.436上段左側)

1:24 私の同労者たち、マルコ、アリストアルコ、デマス、ルカがよろしくと言っています。

バルナバとの第二回伝道旅行からエルサレムに戻ったマルコのその後10年間の消息は詳しく分かっていないが、ペテロと共に行動した事が考えられる。そして紀元50年中頃にローマにおいて福音書を執筆する。

◎先週の礼拝メッセージの概要【地方総督セルギウス・パウルス】

《バルナバとサウロによる第一回伝道旅行が始まりました。時期は紀元48年から49年頃のことです。アンティオキアのセルキヤ港から、キプロス島に行く船が出航していたのです。キプロスとは「銅」という意味で、地中海東端にある大きな島です。この島は、バルナバの生まれ故郷でもありました。また、同行させたヨハネ・マルコは、彼のいところでもあります。

ユダヤ人は、血筋を非常に大切にします。バルナバの家族や親族、またマルコの親族もこの島にいたと考えられます。まず初めに、彼らに、福音を伝えようとしたことは、心からの愛の行為の何物でもありません。

さて、航海も無事に守られ、サラミスに到着します。彼らは、じっくりと時間をかけて島を一周し、そして首都パポスにやって来ます。ローマはここに行政府をおき、地方総督を常駐させていました。この時の地方総督は、セルギウス・パウルスでした。彼は、バルナバとサウロを招いて神の言葉を聞きたいと願います。おそらく、クリスチャンの良い評判が、彼の耳にも届いていたようです。さて、二人が、地方総督の邸宅に招かれてやって来ますと、そこにいた、バルイエス(別名エリマ)と言う魔術師が、二人を地方総督に会わせないように試みます。すると、サウロは、聖霊に満たされ、バルイエスをにらみつけて、こう命じるのです。

「盲目になれ。お前はしばらくの間、日の光を見ることができなくなる。」

するとたちまち、彼の目は閉ざされ、手を引いてくれる人を探します。その有様を見ていたセルギウス・パウルスは、信仰を決断するのです。

さて、その後のバルイエスについては聖書は教えていません。しかし、神様は、このように敵である者さえ用いられるお方なのです。パウロはこう証しています。『神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちの為には、すべてのことが共に働いて益となることを、私たちは知っています。(ローマ8:28)』と。神様の御心の中には「偶然」はありません。実は、すべてが「必然」です。すべての状況は、主イエス様の御手の中にあります。私たちは、このお方を信じ、信賴して行くのです。》

◎お知らせ

※第二主日礼拝は11月14日(日)午前10時から教会で行ないます。

